

高等部 国語科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日（土）
 10：30～11：20
 場 所：本館2階 3年生教室
 対 象：Eグループ 5名
 授業者：播磨 久美子

1 題材名 『高校生は見た！』で、自分が見た出来事をわかりやすく伝えるために、話の内容を考えて話そう

2 題材設定の立場

(1) 題材について

生徒観	<p>本グループには、1年生1名(F)、2年生2名(K・M)、3年生2名(P・Q)の5名の生徒が在籍している。授業では、課題意識をもって意欲的に取り組むことができ、活動の中で互いによいところを認め合うなど、生徒同士で学び合う姿が見られる。一方で、授業で習得した知識及び技能を日常生活で十分に活用できていないという課題が見られる。</p>																													
系統観	<p>本グループは、中学部2段階の「聞くこと・話すこと」を学習する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>概要の後、特徴的な事柄の様子を詳しく伝える構成や、相手に様子をわかりやすく伝えるために必要な視点を入れて話す（令和2年度「聞くこと・話すこと」）</p> </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>相手の状況に応じて、話に加える事柄や事柄の説明に入れる視点、わかりやすい構成を判断して話す</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>相手にわかりやすく用件を伝えるための視点や構成でメモを書く（令和3年度「書くこと」）</p> </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> </div> <p>これまでに、上記左の指導内容を達成することができている。そこで、本題材では、既習内容を活用して、相手の状況に応じて事柄の構成や必要な視点を判断して話す学習を行い、わかりやすく伝えるための知識及び技能の習得がより深まるようにする。</p>																													
指導観	<p>相手にわかりやすく話す力を高めることは、コミュニケーションの広がりや深まりとなり、卒業後の職業生活に生きる力となる。そこで、本題材では、題材の前半は、相手にわかりやすく出来事の経緯を伝えるために必要な事柄や視点を整理し、知識及び技能の習得を確実なものとする。その際、生徒の実態に応じた『見たことシート』を使用し、可視化することで思考を助けたり、整理したりすることができるようにする。後半は、相手の状況に応じて話に加える事柄やその説明に入れる視点を選択したり、わかりやすい構成を考えたりして話す学習を行う。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="5">出来事</td></tr> <tr><td>事柄①</td><td>事柄②</td><td>事柄③</td><td>事柄④</td><td>事柄⑤</td></tr> <tr><td colspan="5">――――→</td></tr> <tr><td colspan="5">経緯</td></tr> </table> <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="3">構成</td></tr> <tr><td>事柄①</td><td>事柄③</td><td>事柄⑤</td></tr> <tr><td colspan="3">↔ ↔</td></tr> </table> </div> <div> <p>事柄…出来事の中の一つの事実 内容…事柄の詳細 視点…事柄を詳しく説明する要素(5W1Hなど) 経緯…出来事の発端から結末までの一連の流れ 構成…話の中心となる事柄とそれに関連する事柄を1つのまとまりに組み立てること</p> </div> </div>	出来事					事柄①	事柄②	事柄③	事柄④	事柄⑤	――――→					経緯					構成			事柄①	事柄③	事柄⑤	↔ ↔		
出来事																														
事柄①	事柄②	事柄③	事柄④	事柄⑤																										
――――→																														
経緯																														
構成																														
事柄①	事柄③	事柄⑤																												
↔ ↔																														
教材観	<p>『高校生は見た！』は、動画を見た話し手が、出来事を聞き手の状況に応じてわかりやすく伝える話の構成を考える教材である。聞き手の時間の有無に応じて、構成や視点を判断して話す学習に取り組み、話す力を高めていけるようにする。聞き手の立場から知りたいことを考え、話に加える事柄や説明に入れる視点を選択したり、わかりやすく構成したりして話すことができるように、話し手と聞き手の双方の立場で学習に取り組む。生徒同士で相手にわかりやすく伝わったかを話し合う仕組みにすることで、対話的な活動を設定でき、深い学びの実現を目指すことができると考える。</p>																													

(2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
Q	<p>【一般的な実態】 CA：18</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が話している途中で話を終え、相手の方に顔を向けていることがある。 出来事の説明をするとき、経緯が抜けることがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正誤の判断基準を提示すると、自分で正誤を判断する。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな課題に取り組んだり、生徒同士で意見を発表したりするとき、周囲の友だちの様子を見たり、友だちの意見を聞いた後に発言することが多い。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 場所、色、数などの視点を提示しておく、視点に沿って内容を聞き取ることができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめに」「次に」などの順序を示すことばが入った文章を読んで時系列に並べかえることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所、色、数などの視点を提示しておく、説明を聞いた後、「場所をもう一度教えてください」などと、聞き逃した視点について質問をする。 ・教師が休日のことを尋ねると、「はじめに映画に行き、その後、買い物をして帰った」と大体の事柄を時系列で話す。
Q	<p>【指導の方向】 視点を提示しておく、聞き取れなかった視点について質問をして確かめたり、文中の「はじめ、次、それから」など順番を示すことばから、事柄の順序を判断して文章を並べ替えたりすることができている。本題材では、相手の状況に応じてわかりやすく伝えるために、必要な事柄や視点を判断して話す学習に取り組む。はじめは、出来事を詳しく話すために必要な知識が確実に身につくように、『見たことシート』を使って、経緯を時系列で詳しく説明する学習を行う。次に、相手の状況に応じて、時間がない相手に対しては省略できる事柄や視点があることが理解できるように、必要な事柄や視点を判断して話す学習に取り組む。</p>
K	<p>【一般的な実態】 CA:17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明に加える事柄が多く、聞き手に内容が伝わりにくい。 ・経緯が前後したり、途中で主語が抜けたりする。 ・教師が他の活動をしている状況でも、一方的に話し続ける。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師からの質問を聞いて、関連のない内容を答えることがある。 ・決めた仕方を提示すると、仕方を覚えてその通りに取り組む。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤った仕方のとき、教師が正しい仕方を説明すると、「同じじゃないですか」などと言うことがある。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見たことは、様子を表す視点(時間、場所、人、色、数、変化の様子など)を入れて、説明できる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の知識の有無にかかわらず、スポーツなどの専門的な用語を交えて話をする。 <p>【指導の方向】 説明に加える事柄が多く、また、事柄が前後したり、主語が抜けたりするため、伝えたいことが相手にうまく伝わらないことが多い。本題材では、相手の状況に応じてわかりやすく伝えられるようになるために、出来事の中から相手に伝える必要のある事柄を判断して、端的に話す学習に取り組む。はじめは、話の中心となる事柄を明確にして構成することができるように、『見たことシート』を使って、経緯で起きた事柄を整理し、中心となる事柄に関連する事柄を加えて話す学習を行う。仕方を理解すると定着が速いという実態から、時間的余裕のない相手に対して、より端的に経緯を説明できるように、話に加える事柄を判断して話す学習にも段階的に取り組む。</p>
F	<p>【一般的な実態】 CA:15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話をはじめる前に、間が空くことがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めた仕方を提示すると、はじめはその通りに取り組むが、途中から仕方が変わることがある。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちに尋ねられると、作業など自分の活動の進み具合を報告する。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見たことを、「はじめに」「次に」などの順序を示すことばを入れて時系列に説明できる。 ・提示した、場所、色、数などの視点を手がかりに、話に含まれている視点を聞き取ることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明から、手順や色、数、方向などの、説明に含まれる視点を聞き取り、その通りに行動する。
P	<p>【一般的な実態】 CA:18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の途中で、「あの、えっと」を多用したり、言いよんだりすることがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を始める前や活動の途中で、自分から教師に質問して、正しい仕方を確かめる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むとき、習得した知識及び技能を活用しようとする。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が見たことを、「はじめに」「次に」などの順番を示すことばを入れて時系列に説明できる。 ・自分が見たことの様子を表す視点(時間、場所、誰、色、数、変化の様子など)を入れて、説明できる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明から、手順や色、数、方向などの、説明に含まれる視点を聞き取り、その通りに行動する。 ・教師の依頼を相手に伝えるとき、教師に構成を考えて話し、適切に構成できているかを確認する。
M	<p>【一般的な実態】 CA:16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の途中で間が空いたり、話の終わりで自らの構成を確かめるように語尾を上げたりすることがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めた仕方や正誤の判断基準を提示しておく、その通りに課題に取り組み、正誤を判断する。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと分担して活動するとき、分担が決まらないときは、自分から案を発言する。 ・作業などで自分が担当する活動を終えた後、次の指示や依頼を待つことが多い。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見たことを、「はじめに」「次に」などの順序を示すことばを入れて時系列に説明できる。 ・自分が見たことの様子を表す視点(時間、場所、誰、色、数、変化の様子など)を入れて、説明できる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明から、手順や色、数、方向などの、説明に含まれる視点を聞き取り、その通りに行動する。
F・P・M	<p>【指導の方向】</p> <p>3名とも、相手に経緯を伝えるために必要な事柄や、事柄の説明に入れる視点を入れて話すことができる。しかし、日常生活で報告などをするとき、話をはじめの前や途中で間があったり、言いよんだりするなど、授業で習得した相手にわかりやすく話すための知識及び技能を、日常生活の中で十分に活用できていない様子がある。本題材では、相手の状況に応じてわかりやすい構成で話す学習に取り組み、相手にわかりやすく話すよさを実感することを通して、習得した知識及び技能をより確実に定着させたい。Fは、自分から友だちに話しかけることが少なく、Mは、相手から意見を求められるまで待つことが多いため、はじめは教師が話し合いに参加して意見を引き出したり、意見のよさを即時に認めたりすることで、自信をもって主体的に学習に取り組めるようにしていく。Pは、表現の仕方や語彙でことばが途切れた場合に、その都度、教師が正しい表現や語彙などを教えるようにする。</p>

3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している

		題材目標	学習指導要領の扱う内容
Q	知	時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、相手に伝わるように話すよさがわかり、『見たことシート』を手がかりに、中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す	中学部 2段階 A 聞くこと・話すこと 【知識及び技能】
	思	『高校生は見た!』で、相手の時間の有無に応じて自分が見た出来事を説明するとき、相手に一番伝えたいことを考え、話す事柄を判断し、中心となる事柄と起因する事柄の構成で話す	イ(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること 【思考力・判断力・表現力等】 (Q・K)
K	知	時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、簡潔に話す必要とよさがわかり、『見たことシート』を手がかりに、中心となる事柄と起因する事柄の構成で簡潔に話す	イ相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること (F・P・M)
	思	『高校生は見た!』で、相手の時間の有無に応じて自分が見た出来事を説明するとき、一番伝えたいことを考え、話す事柄を判断し、中心となる事柄と起因する事柄の構成で話す	ウ見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること 【学びに向かう力・人間性等】
F・P・M	知	自分が見た出来事を説明するとき、相手にわかりやすく話すよさがわかり、中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す	ウ見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること 【学びに向かう力・人間性等】
	思	『高校生は見た!』で、相手の時間の有無や経緯の把握状況に応じて自分が見た出来事を説明するとき、どのように話を構成するかを考え、わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄と起因する事柄の構成や、中心となる事柄のみの構成で話す	ウ言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う
全学		ことばがもつよさに気づくとともに、国語を大切に、思いや考えを伝える	

4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

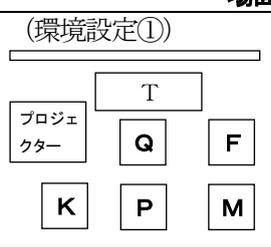
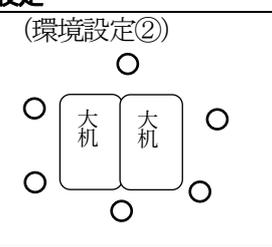
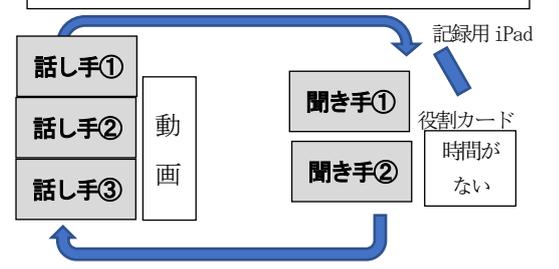
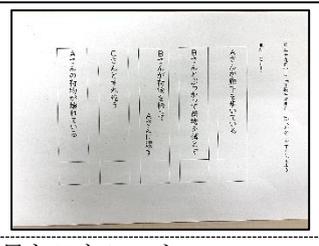
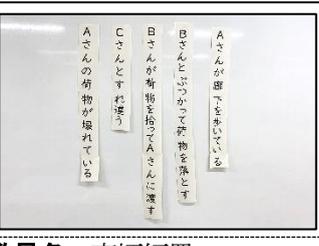
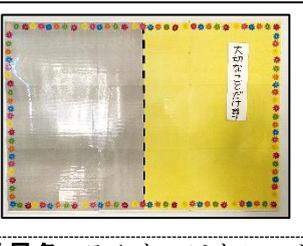
5 本時案 (全8時間の4時間目)

(1) 題目 『高校生は見た!』で、動画を見て、時間がない相手にわかりやすく伝えるための事柄や視点について『見たことシート』を使って考えたり、考えた構成で話したりしよう

(2) 本時のめあてと評価規準 生徒に応じて、必要な観点のめあてを設定(題材計画参照)

観点別の本時のめあて		評価規準
Q	知	時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、相手に伝わるように話すよさがわかり、『見たことシート』を使って、中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す
K	知	時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、簡潔に話す必要性がわかり、『見たことシート』を使って、中心となる事柄と起因する事柄の構成で簡潔に話す
FPM	思	『高校生は見た!』で、時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄のみの構成で簡潔に話す
全学		『高校生は見た!』で、時間がない相手に、自分が見た出来事を説明するとき、わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄のみの構成で簡潔に話す
全学		A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価を行う

(3) 場面設定と準備物

場面設定		意図と工夫点
<p>(環境設定①)</p>  <p>(環境設定②)</p> 	<p>展開で、相手の状況に応じた話の構成を考えるため、全員で同じ動画を見て、相手の状況を確認めたり、状況に応じて伝える必要がある事柄や視点を考えたりして、「時間がない相手にどう伝えるか」についての意見を出し合う。話し合いの流れや結論を可視化するために、生徒の意見をまとめ、話し合いの後ホワイトボードに提示する。</p>	
	<p>発展で、話し合いで出た意見を基に、相手の状況に応じた構成で話すために、話に加える事柄やその説明に入れる視点を選択して話したり、聞き手の立場で何を知りたいかを考えたりする。お互いの話を確認し合うために、話し手と聞き手の双方の立場で学習に取り組むことができる仕組みで学習を行う。また、相手にわかりやすい話し方ができた喜びを感じながら学習できるように、生徒同士で相手にわかりやすく伝わったかを話し合う場面を設定する。</p>	
準備物		
 <p>教具名 見たことシート 意図と用途 自分が説明したいことを相手に伝えられる話し方を考えるためのワークシート。</p>	 <p>教具名 事柄短冊 意図と用途 動画の出来事を話すとき、話の構成を考えるためのもの。</p>	 <p>教具名 みんなのはなシート 意図と用途 話し合いで出た意見を並べたり、仕分けたりするもの。</p>

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次		二次				三次		
時数		1	2	3	4	5	6	7	8	
Q	知技	場面	友だちや教師が見た出来事の話聞いたとき	時間がある相手に	自分が見た出来事を説明するとき		時間がない相手に			
		できた姿	時系列で話す	『見たことシート』を手がかりに		中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す				
	思判表	具体的状況					時間がない相手に	『高校生は見た!』で相手の時間の有無に応じて		
		表出像					自分が見た出来事を説明するとき		ワークシートを手がかりに	
K	知技	場面	友だちや教師が見た出来事の話聞いたとき	時間がある相手に	自分が見た出来事を説明するとき		時間がない相手に			
		できた姿	中心となる事柄を答える	中心となる事柄と起因する事柄を答える	中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す	中心となる事柄に起因する事柄の構成で簡潔に話す				
	思判表	具体的状況					時間がない相手に	『高校生は見た!』で相手の時間の有無に応じて		
		表出像					自分が見た出来事を説明するとき		ワークシートを手がかりに	
F・P・M	知技	場面	友だちや教師が見た出来事の話聞いたとき	自分が見た出来事を説明するとき						
		できた姿	中心となる事柄と起因する事柄を答える	中心となる事柄と起因する事柄を入れて話す						
	思判表	具体的状況			時間がある相手に	時間がない相手に	経緯を知っている相手に	相手の時間の有無や経緯の把握状況に応じて		
		表出像			わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄と起因する事柄を含む構成で話す	わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄と起因する事柄のみの構成で簡潔に話す	相手に伝える必要のある事柄と視点を判断し、中心となる事柄のみの構成で簡潔に話す	どのように話を構成するかを考え、わかりやすく伝えられる事柄と視点を判断し、中心となる事柄と起因する事柄の構成や、中心となる事柄のみの構成で話す		
主体的な姿	粘り強さ	○生徒同士で相手にわかりやすく伝わったかを話し合い、自分や相手の話し方のよさを振り返る ○ワークシートを手がかりに、相手にわかりやすい視点や構成を考えたり、確かめたりする (Q・K)								
	学習調整	○知識及び技能を活用して考えたり、判断したりして表現している ○日常生活で、学んだことを活用できる場面を考える								
配慮的に扱う内容		○語彙 (全員) ○文法 (全員)								

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ				
	Q	K	F	P	M
<p>1. 本時の学習内容を知り、本時の学習に見通しをもつ。</p> <p>2. 『高校生は見た！』の動画を見て、相手の状況に応じてわかりやすく話すための事柄や構成を考える。</p>	<p>○前時での学習内容やわかったことを確認するために、前時で取り組んだ活動や学んだことを伝え、これまでに学習したことを振り返る。</p> <p>○意欲や見通しをもって学習に取り組めるように、本時の活動の流れを知らせる。</p>	<p>○活動の流れを理解して主体的に取り組めるように、『高校生は見た！』の動画を見て、話すポイントに目を向けて話したり、聞いたりすることを伝え、場面設定をする。</p> <p>○伝えるための話の構成を考えやすくするために、見た動画の出来事を問いながら、構成する事柄を整理してホワイトボードに提示する。</p> <p>○話し手は話の構成を考える、聞き手は話し手の話が伝わったかどうか、話の構成で判断するために、『見たことシート』を配布し、話し手役では話す事柄を、聞き手役では聞き取った事柄を記入することを知らせる。</p> <p>○課題意識をもって主体的に活動に取り組むために、課題の途中で、相手に時間の余裕がない状況であることを伝える。</p>	<p>○話す事柄を選択できない場合には、前時までの「話すポイント」を確認するように伝え、伝える必要がある内容に目が向くようにして発言を促す。</p> <p>○選択した事柄や視点が大きい場合には、相手の状況に応じた話ができていることを実感できるようにするために、聞き手の教師が「時間がないので、もういいです」と途中で話を終える役をする。</p>	<p>○本時の課題に主体的に取り組むために、本時のめあてを提示し、時間に余裕がない相手に伝える必要がある事柄や構成について考えることを伝える。</p> <p>○相手の状況を理解するために、自分に時間がないときの気持ちについて考え、意見を述べるよう伝える。出た意見は可視化してホワイトボードに提示し、話の構成を考えるときに使用する。</p> <p>○友だちの意見について考えたり、自分の意見と比べたりして学び合うことができるように、自分が話した構成とその理由をもとに話し合うよう伝え、場面設定をする。</p>	<p>○伝える事柄が決まらない場合には、相手の状況に応じて話す事柄に違いがあることに気づくように、自分が急いでいるときには、相手にどのように話してほしいかを尋ねる。</p> <p>○自分から発言をしない場合には、問いにどう答えるかの視点に気づくように、出来事の中から教師と一緒に中心となる事柄を確かめたり、友だちの意見に対してどう思うかを尋ねたりする。</p>
<p>3. 『高校生は見た！』で、相手の状況に応じて話したり、友だちの話を聞いて相手の状況に応じた話ができているかを判断したりする。</p>	<p>○本時でまとめた「話すポイント」が相手に時間がない状況で活用できるかを確かめるために、『高校生は見た！』の動画を見て、「話すポイント」の構成で動画の内容について話すよう伝える。</p> <p>○相手の話を聞いて、話の構成が簡潔であったかどうかを判断できるように、聞き手役は『見たことシート』に聞き取った事柄を記入するよう伝える。</p>	<p>○急いで話す」「早口で話す」などの意見が出た場合には、簡潔に話す必要性に気づけるように、自分が急いでいるときに、相手から早口で細かい内容を伝えられるとどのような気持ちになるかを問う。</p> <p>○伝える事柄が決まらない場合には、話の構成に目が向くように、出来事の中から伝えなければならない事柄を問う。</p> <p>○全ての事柄を選んだ場合には、簡潔に話すための話の中心となる事柄と、説明に必要な事柄の構成に目が向くように、グループの友だちに意見をもらい、事柄が多いと相手に伝わりにくいことを知らせる。</p>	<p>○選んだ事柄や視点が大きい場合には、状況を描けるように、自分が急いでいるときには、相手にどのように話してほしいかを尋ねる。また、その事柄を伝える必要性に目が向くように、事柄や視点から、伝える必要があるものを問い、理由とともに発言するよう促す。</p> <p>○伝える事柄が決まらない場合には、話の構成に目が向くように、すべての事柄を伝える必要があるかを問う。</p>	<p>○選んだ事柄や視点が大きい場合には、その事柄を伝える必要性に目が向くように、事柄や視点から、伝える必要があるものはどれかを問い、理由とともに発言するように伝える。</p>	
<p>4. 本時の学習を振り返り、わかったことをまとめる。</p>	<p>○本時のめあてを振り返るために、『高校生は見た！』で受け取った『見たことシート』を基に、ホワイトボードの話すポイントに沿って話ができただかどうかを問う。</p> <p>○本時の学習内容を日常生活に汎化できるように、生活の中で時間に余裕がない人に話をするときには、本時の話し方を活用して見るように伝える。</p> <p>○次時の学習に意欲をもつことができるように、次時の学習活動を伝えて本時を終える。</p>				